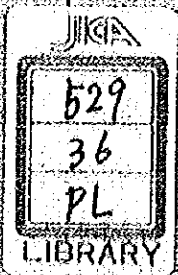
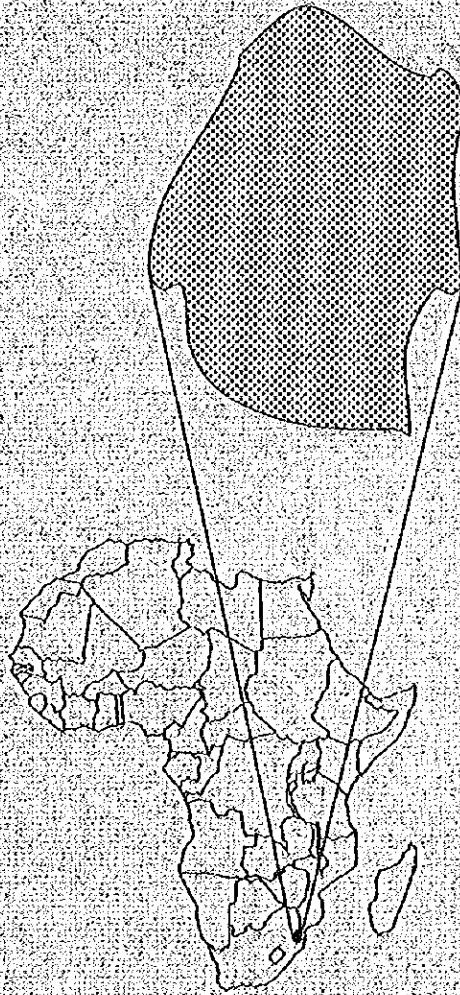


平成4年度

# JICA 国別協力情報

# スワジランド

KINGDOM OF SWAZILAND



国際協力事業団

国際協力事業団

24044

JICA LIBRARY



1099285(7)

24044

## 作成にあたって

近年開発途上国が抱えている開発課題及び開発ニーズは、開発途上国の経済発展の度合い、経済的・社会的な諸条件及び自然環境の状況等により、ますます多様化・複雑化してきています。こうした状況の中、より効率的・効果的な援助を実施するためには、被援助国の真の開発課題と開発ニーズを的確に把握することが必要となるとともに、被援助国の開発計画及び国際機関を含めた他の援助機関の援助動向と我が国の援助との整合性を図ることが重要となってきています。このため国際協力事業団（JICA）は、援助対象国のうち81ヶ国について、それぞれ当該国の経済・社会の概要、国家経済社会開発計画の概要及び我が国をはじめとする主要援助供与国、国際機関の援助実績とその動向等を調査し、本書を取りまとめました。（平成3年度に41ヶ国、平成4年度に40ヶ国を作成）

本書は、JICA職員及び派遣専門家等が我が国の国際協力の方向性を考え、個々の協力案件を実施するための基礎資料として、また各種調査団等の携行資料として活用されることを願うものです。

ここに、本書作成にご協力いただいた関係各位にあらためて感謝申し上げます。

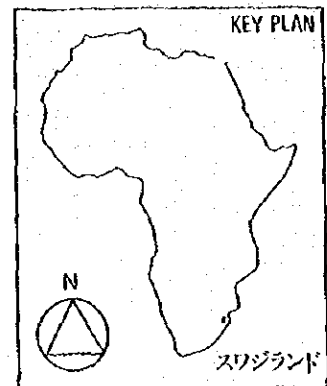
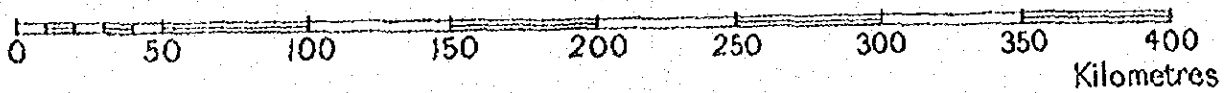
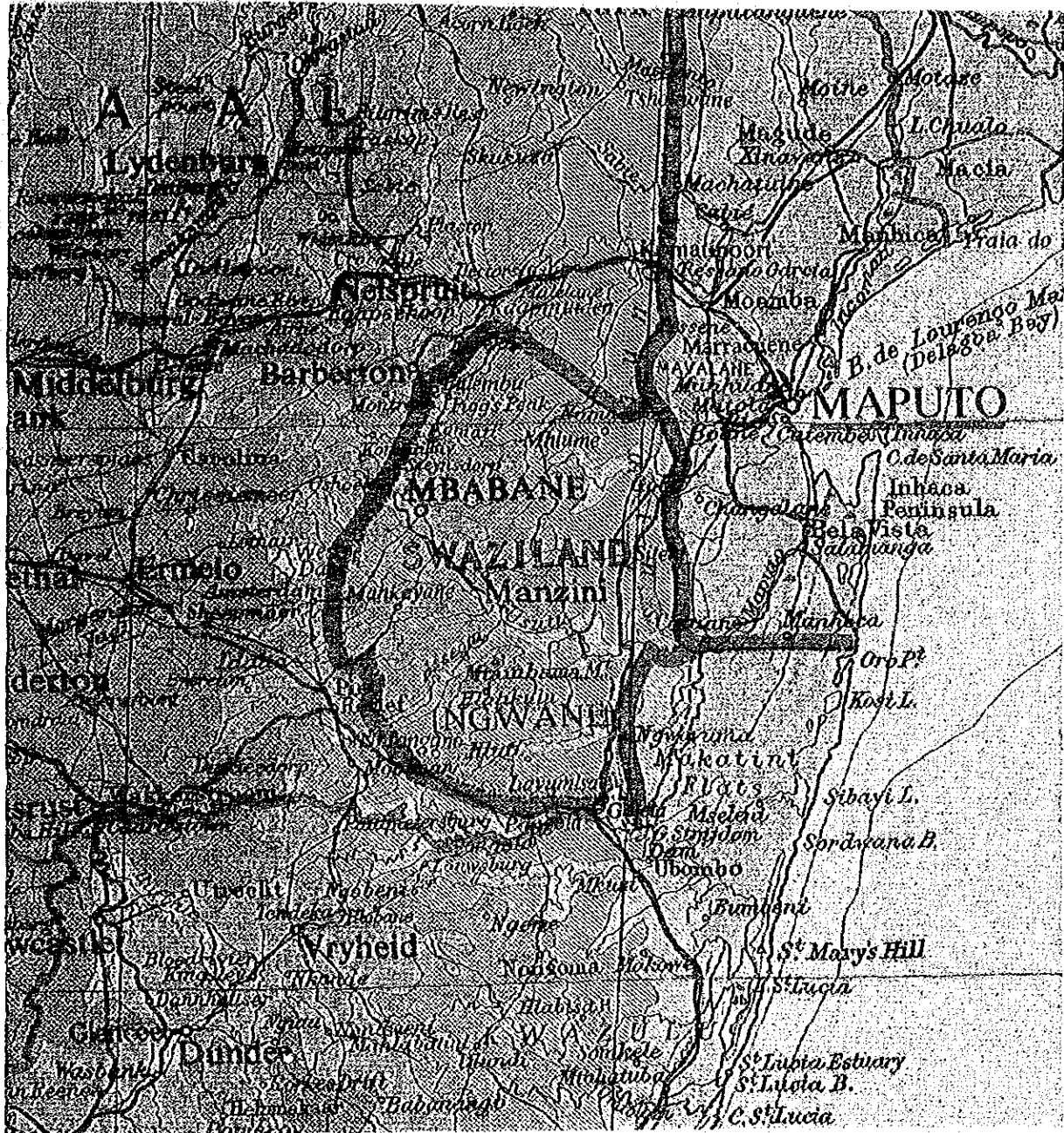
平成4年7月

国際協力事業団  
企画部長  
鏡 武

## 国際機関名略称

AfDB	-African Development Bank	アフリカ開発銀行
AfDF	-African Development Fund	アフリカ開発基金
AsDB	-Asian Development Bank	アジア開発銀行
CarDB	-Caribbean Development Bank	カリブ開発銀行
EC	-European Communities	欧州共同体
EEC	-European Economic Communities	欧州経済共同体
EDF	-European Development Fund	欧州開発基金
FAO	-Food and Agriculture Organization	国際連合食糧農業機関
IBRD	-International Bank for Reconstruction and Development	国際復興開発銀行 (通称; 世界銀行)
IDA	-International Development Association	国際開発協会 (通称; 第二世界銀行)
IDB	-Inter-American Development Bank	米州開発銀行
IEA	-International Energy Agency	国際エネルギー機関
IFAD	-International Fund for Agricultural Development	国際農業開発基金
IFC	-International Finance Corporation	国際金融公社 (世界銀行グループ)
IGGI	-Inter-governmental Group on Indonesia	インドネシア債権国会議
ILO	-International Labour Organization	国際労働機関
IMF	-International Monetary Fund	国際通貨基金
ITU	-International Telecommunications Union	国際電気通信連合
OECD	-Organization for Economic Cooperation and Development	経済協力開発機構
OPEC	-Organization of Petroleum Exporting Countries	石油輸出国機構
UNCTAD	-United Nations Conference on Trade and Development	国連貿易開発会議
UNDP	-United Nations Development Programme	国連開発計画
UNESCO	-United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization	国連教育科学文化機関
UNFPA	-United Nations Fund for Population Activities	国連人口活動基金
UNHCR	-Office of the United Nations High Commissioner for Refugees	国連難民高等弁務官事務所
UNICEF	-United Nations Children's Fund	国際連合児童基金
UNIDO	-United Nations Industrial Development Organization	国連工業開発機関
UNRWA	-United Nations Relief and Works Agency for Palestine Refugees in the Near East	国連パレスチナ難民救済事業機関
WFP	-World Food Program	世界食糧計画
WHO	-World Health Organization	世界保健機構
WMO	-World Meteorological Organization	世界気象機関

# Swaziland



(c) Bartholomew. Extract from the Times Atlas of the World (Eighth Edition 1990).  
Reproduced with permission. All rights reserved.

# 目 次

I. 概 況 .....	1
II. 経済情勢及び経済・社会開発計画	
1. 経済情勢 .....	4
2. 国家経済社会開発計画 .....	7
3. 我が国との関係 .....	8
III. 援助実績と動向	
1. 援助の概況 .....	9
2. 主要援助国及び国際機関の援助実績と動向 .....	10
3. 我が国の援助実績と動向 .....	13
4. ファクトシート .....	18
IV. プロジェクト配置図	
1. プロジェクト方式技術協力 .....	21
2. 開発調査 .....	22
3. 無償資金協力 .....	23
4. 円借款 .....	24

## 図表リスト

- 図- 1 スワジランドの人口
  - 図- 2 輸出入の変化
  - 図- 3 援助形態別ODA推移
  - 図- 4 援助主体別ODA推移
  - 図- 5 スワジランドへのODA
  - 図- 6 スワジランドへの技術協力
  - 図- 7 スワジランドへの無償資金協力
  - 図- 8 スワジランドへの借款
  - 図- 9 我が国の対スワジランドODA実績
  - 図-10 過去10年間の年度別受入及び派遣人数
  - 図-11 分野別の研修員受入累積実績
  - 図-12 分野別の専門家派遣累積実績
  - 図-13 分野別の協力隊派遣累積実績
  - 図-14 分野別の調査団派遣累積実績
  - 図-15 分野別の無償資金協力累積実績
- 
- 表- 1 主要経済指標
  - 表- 2 主要産業別シェア
  - 表- 3 1990年度 国家予算
  - 表- 4 部門別に見るGDP



# I. 概 況

1) 正式国名	スワジランド王国 (Kingdom of Swaziland)																												
2) 独立年月日	1968年 9月 6日 <旧宗主国> 英国																												
3) 政 体	立憲君主制 <元首の名称> 国王ムスワティ 3世 (King Mswati III)																												
4) 面 積	17 千平方キロメートル (四国より若干狭い) (注1)																												
5) 首 都	ムババネ (3.8万人、1986年) (注2)																												
6) 気 候	月平均気温は、東部で1月27℃、7月19℃。高地の西部地域で1月20℃、7月12℃。降水はインド洋から南東モンスーンの吹く10～3月に集中し、年平均 500～700ミリ程度だが、西部高地では、1,000～2,000ミリに達する。また、中部草原は亜熱帯性気候。																												
7) 人 口	<p>&lt;総人口&gt; 約 79.7 万人 (1990年) (注1)</p> <p>&lt;人口成長率&gt; 3.4 % (1980～1990年) (注3)</p> <p>&lt;平均寿命&gt; 57 歳 (1990年) (注1)</p> <p style="text-align: center;">図-1 スワジランドの人口</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>図-1 スワジランドの人口 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>人口成長率 (%)</th> <th>乳児死亡率 (%)</th> <th>平均寿命 (歳)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1979</td> <td>3.5</td> <td>100</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>1981</td> <td>3.5</td> <td>95</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>1983</td> <td>3.5</td> <td>90</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>1985</td> <td>3.5</td> <td>85</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>1987</td> <td>3.5</td> <td>80</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>1989</td> <td>3.5</td> <td>75</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">出所 World Tables 1991 The World Bank</p>	年	人口成長率 (%)	乳児死亡率 (%)	平均寿命 (歳)	1979	3.5	100	50	1981	3.5	95	52	1983	3.5	90	54	1985	3.5	85	56	1987	3.5	80	58	1989	3.5	75	60
年	人口成長率 (%)	乳児死亡率 (%)	平均寿命 (歳)																										
1979	3.5	100	50																										
1981	3.5	95	52																										
1983	3.5	90	54																										
1985	3.5	85	56																										
1987	3.5	80	58																										
1989	3.5	75	60																										
8) 言 語	<p>&lt;公用語&gt; 英語。</p> <p>その他にスワジ語 (シスワティ) がほとんどすべてのアフリカ人によって用いられている。</p> <p>ヨーロッパ人の約60%は英語を話し、約30%はオランダ語から派生したアフリカンスを用い、ケープ有色人の約90%は英語を話す。</p>																												
9) 民 族 等	<p>総人口の95%はバントゥー系のスワジ族で、その他には、ズールー族、トンガ族、シャンガーン族などがある。また、白人との混血も少数居住している。</p>																												

10) 宗 教	国民の約75%がキリスト教を信仰し（国民の約65%がプロテスタント、カトリックが約10%）、その他はほとんどが伝統的宗教を信仰している。
11) 文 化	スワジランドは古代王朝の流れをくむ単一種族の国だといわれる。 一般にスワジ族の伝統が守られており、議員の選挙もこれに従って行われる。また、12月から1月にかけて王であるングエニアマ（ライオン）を讃える祭りインクワラが、6～7月には皇太后ンジョウカシ（メスの象の意）を讃える祭りウムヒアングがロバンバで催される。
12) 教 育	<p>&lt;義務教育&gt; 6歳から7年間の初等教育</p> <p>&lt;就学率&gt;（標準就学年齢人口に対する総就学者の比率）</p> <p>初等教育： 110% （1986年） （注4）</p> <p>中等教育： 43% （1986年） （注4）</p> <p>高等教育： 4% （1986年）（20～24歳人口に対する就学率）（注4）</p> <p>&lt;識字率&gt; 68% （1985年） （注3）</p>
13) 保 健 ・ 医 療	<p>&lt;医師一人当たりの人口&gt; N.A. （1984年） （注1）</p> <p>&lt;看護人一人当たりの人口&gt; N.A. （1984年） （注1）</p> <p>健康サービス施設や上水道の拡充にも拘らず、スワジランド国民の健康状態は同程度の歳入がある国々に比べ劣っている。</p> <p>このため、政府は1989年度以降保健・医療に対する予算を大幅に増加させ、90年度には歳出の11%を費やした。</p>
14) 通 貨	<p>リランジェニ（1リランジェニ = 46.43円） （注5）</p> <p>※複数はエラマンジェニ （1992年4月末現在）</p>
15) 会 計 年 度	不詳
16) 略 史	<p>1820年頃 スワジ族、ズールー族に追われて北上、現在の地域に定住</p> <p>1894年 トランスヴァールに併合</p> <p>1902年 ボーア戦争の結果、英保護領になる</p> <p>1921年 ソブーザ2世即位</p> <p>1964年 総選挙</p> <p>1967年 英国による独立承認</p> <p>1968年 独立（9月6日）</p> <p>1973年 国王による憲法停止</p> <p>1977年 議会解散</p> <p>1978年 新憲法制定</p> <p>1982年 南ア・スワジランド不可侵条約締結（2月17日）</p> <p>ソブーザ2世死去</p> <p>1983年 総選挙（10月）</p> <p>1986年 ムスワティ3世即位（4月）</p>

17) 政治	<p>&lt;内政&gt; 前国王ソブーザ2世は約60年間にわたって国王の座に君臨し、独立以後、立法拒否権を自らが持つ憲法を制定するなど、ますます独裁色を強めた。現在の国王ムスワティ3世も、ほぼその延長線上にあるといえるが、その権力は伝統的儀式を理由無しに欠席した者は10エラマンジェニの罰金を課すなど多岐にわたる。また、ソブーザ2世の死後起こった王位継承をめぐる王室の内紛は未だ鎮静しておらず、内政的な影響を及ぼしていると考えられる。</p> <p>&lt;外交&gt; スワジランドは公式的には中立を宣言し、非同盟を保っているものの、ACP（アフリカ、カリブ海、太平洋）連携国として欧州共同体（EC）への輸出の特恵を受けるなど親西側であり、しかも現実路線に根ざした穏健な外交政策をとっている。また、南アとは主に経済的な理由によって従属的な関係にある。しかし、アパルトヘイトには反対の意志を示し、南部アフリカ開発調整会議（SADC）に1980年に加盟するなど、南アへの依存の脱却も模索中である。この他、国際的には国連、英連邦、アフリカ統一機構（OAU）に加盟しており、外交関係を樹立している国としては、台湾、イスラエル、アンゴラ、ペルーなどが挙げられる。</p>
18) 軍事	<p>&lt;国防予算&gt; 約 18 百万ドル（1989年） &lt;兵役&gt; 徴兵制（2年） &lt;総兵力&gt; 現 役： 2,657 人（1983年） （陸軍・海軍・空軍 不明） (注6)</p>
19) 我が国との協定	不詳
<p>20) 援助要請のための国内手続き</p> <p>現在機構改革中のため不詳</p>	

- 出所 (注1) World Development Report 1992 The World Bank  
(注2) 『イミダス』 1992 集英社  
(注3) The World Bank Atlas 1991 The World Bank  
(注4) Country Profile : Swaziland 1990-91 EIU  
(注5) 東京銀行調べ  
(注6) 『国別協力情報ファイル』 国際協力事業団

## II. 経済情勢及び経済・社会開発計画

### 1. 経済情勢

#### (1) 一般動向

スワジランドの経済は、輸出を主とする商業作物と鉱産物の貨幣経済、及び小農の自給農業経済の二重構造である。過去20年以上にわたり輸出用商業作物、中でも砂糖の生産の増強が図られてきた。砂糖、柑橘類、木材などの農林業や、石炭、アスベストなどの鉱業がスワジランドの主産業であるが、同国経済は基本的に南アに依存せざるをえないのが現況である。同国は南ア、ボツワナ、レソトと共に「南部アフリカ関税同盟 (SACC)」を構成しており、この同盟からの分配金は同国の歳入の約60%を占め、また、南アはスワジランドの輸入の90%以上、輸出の33% (いずれも1986年) を占める相手国である。スワジランドは南ア、レソトとともに1986年7月三国通貨協定に署名、それまでの「ラント通貨圏」を「共通通貨圏」に名称変更した。これを機に同国の通貨リランジェニと南ア通貨ラントとのリンクをはずしたが、92年7月現在交換レートは依然1対1のままである。

このような事態を憂慮した政府は、南ア依存を軽減するため、東・南部アフリカ特惠貿易地域 (PTA) 及び南部アフリカ開発調整会議 (SADCC) に加盟、さらに外貨導入、近代化の奨励による産業構造の多様化の促進などの努力を重ねている。

表-1 主要経済指標

	1988年	1989年	1990年
GDP (百万リラツツェ) (注1)	1,325	1,500 <sup>a</sup>	1,700 <sup>a</sup>
実質GDP成長率 (注1)	6.4%	4.2%	4.3% <sup>a</sup>
一人当たりGNP (ドル) (注2)	820	900	820
消費者物価上昇率 (注1)	12.4%	8.8%	11.5%
失業率	N.A.	N.A.	N.A.
貿易収支 (百万ドル) (注1)	-47	-63	-98
輸出額 (百万ドル)	469	520	565
輸入額 (百万ドル)	516	583	663
経常収支 (百万ドル) (注1)	82	3	50
対外債務残高 (百万ドル) (注1)	265	270	272
外貨準備高 (百万ドル) (注1)	140	181	216

a : EIU推定

出所 (注1) Country Report : Namibia, Botswana, Lesotho, Swaziland No. 2  
1992 EIU

(注2) The World Bank Atlas 1989, 1990, 1991 The World Bank

表-2 主要産業別シェア

	農 業	鉱 工 業	サービス業等
産業別GDP構成比	N.A.	N.A.	N.A.
産業別成長率	N.A.	N.A.	N.A.
産業別雇用 (1986-1989年)	74.0%	9.0%	17.0%

出所 Human Development Report 1992 UNDP

## (2) 国家財政

### 7) 財政政策

南部アフリカ関税同盟 (SACU) は、南アの輸出業者が諸外国より有利になるように、SACU外からスワジランドに入ってくる商品に、時には100%を越える高い輸入関税をかけている。その補償としてSACUからスワジランドに譲渡される資金はスワジランドの経常収支の約半分を占めている。つまり、SACUがスワジランドの国庫を支えているのが現状なのである。政府は1984年に売上税を導入したが、この状態を変えることはできず、86年に税金を倍以上に上げることでようやくSACUからの受領額が歳入の47%に下がった。また、86年にはサトウキビが豊作だったが、これは、87年度に直接税を50%近くも引き上げる結果を招き、増税は現在まで続いている。

### 4) 政府財政

1986年7月にラント通貨圏に代わるCommon Monetary Area (CMA) と、SACUに加盟したことは、国庫財政の発展を左右しており、また、SACUからの受領高 (国庫財政の項参照) は、予算収入の中でも大きな部分を占めている。この状況は84年に売上税を導入した以後も変わっていない。

90年度の予算は経常収支が640百万エラマンジェニ、支出が661百万エラマンジェニで補助金を考慮に入れば4百万エラマンジェニの黒字である。経常支出は394百万エラマンジェニで27%が教育に使われた。また、90年度予算で特筆すべきことは将来のプロジェクトのために資本投資機関設立の予算が組み込まれたことである。

表-3 1990年度 国家予算

歳入項目	1990年度 (百万エラマンジェニ)	比率 (%)	歳入項目	1990年度 (百万エラマンジェニ)	比率 (%)
1. 経常収入	639.7	96.2	1. 経常支出	394.4	59.6
直接税	175.9	27.5	2. 資本支出	174.5	26.4
売上税	76.0	11.9	3. 準国内融資	92.5	14.0
SACUからの受領	338.0	52.8			
2. 補助金	25.3	3.8	歳出合計	661.4	100.0
歳入合計	665.0	100.0			

出所 Annual Report Central Bank

### 9) 金融政策

政府の財政黒字は外国に対する負債の償却を導き、銀行部門は外国への預金によって国外資産を蓄積した。

こういった国外への資本流出にも拘らず外貨準備金の政府保有量も急激に増えている。

### (3) 国際収支

商品貿易収支は穏やかな赤字を記録していたが、コカ・コーラ工場の操業などによって1987年には黒字を出した。また、経常収支も穏やかな赤字を記録していたが、86年から88年にかけて、77年以来初めての黒字を出した。89～90年は若干の黒字を計上している。

#### 7) 貿易収支

貿易収支は1986年まで悪化の一途をたどった（81年を除く）が、ようやく86年に赤字を前年の半分に減らすことに成功した。これは、85年のサトウキビの豊作が要因といえる。87年にはサトウキビが豊作だったこととコカ・コーラの製造工場が操業を開始したことが大きく貢献し、赤字はここ10年で最も少なかったが、89年には貿易赤字は98百万ドルに達した。

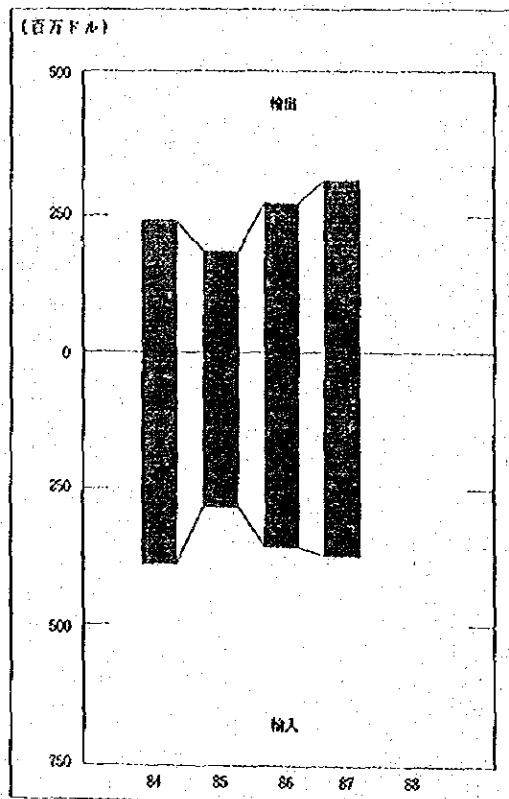
#### 8) 資本収支

1980年代初期の公的部門の活動に助けられて、資本勘定は強い民間流入を記録している。これは、南アにある製造業者を移転させる、もしくは南アのホームランドよりスワジランドに優先的に新しい資本をひきつけるという点で、政府と民間の考えが一致したことによる。

#### 9) 対外債務残高

1988～90年の対外債務残高は2億ドル台に達しているが、債務返済比率は88年6.2%：89年 5.1%、90年 5.9%（E I U資料）と10%を下回っている。

図- 2 輸出入の変化



## 2. 国家経済社会開発計画

### (1) 既往の開発計画

これまでに5年以上にわたる開発計画が過去4回にわたって実施されてきたが、投資や開発目標に関して詳細は不明。

第4次国家開発計画は目標の2倍以上の成長率を示した。

### (2) 現行の開発計画

現行の開発計画は1989年から始まったものであるが、毎年計画が変更されるため、その性格や規模も過去4回の開発計画とは大きく異なるものである。90年には第1回目の変更が行われ、90～92年度開発計画がたてられた。しかし、この計画は3年間の予算と民間資本計画の詳細をとり決めたもので、開発目標については触れていない。

表-4 部門別に見るGDP

(1980年価格：百万エラマンジェニ)

	1983	%	1988	%	年平均成長率
農林業	95.2	23.6	115.6	23.1	4.0%
鉱業・土石業	10.7	2.7	12.7	2.5	3.5%
製造業	94.0	23.3	128.1	25.6	6.4%
建設業	16.9	4.2	14.8	3.0	-2.6%
住宅賃貸業	16.0	4.0	16.6	3.3	0.6%
商業・ホテルetc	45.5	11.3	51.8	10.4	2.6%
運輸・通信業	22.2	5.5	31.2	6.2	7.1%
金融・不動産	26.9	6.7	30.2	6.1	2.3%
政府サービス	69.8	17.3	86.9	17.4	4.5%
その他	5.7	1.4	11.9	2.4	15.8%
GDP全体	400.9	100.0	499.8	100.0	4.4%

(注) 1988年の数値は暫定値、年平均成長率は1984年から1988年まで

出所 The National Accounts of Swaziland 1980:1986  
Development Plan 1990/91-1992/93

### (3) 開発重点課題の概況

重点分野	主要政策	開発推進上の問題点
(1) 経済政策	①産業構造の多様化の促進 ②近代化の奨励 ③税収増大 ④歳出削減	①南ア経済への依存、従属
(2) 農業政策	①Swazi Nation Land (SNL) への入植計画 ②政府によるThe National Agricultural Marketing Board (地方の生産力を高めることによって、輸入果物や輸入野菜への依存を減らす目的で作られた農林省の機関) の設立	①入植した農民の75%以上が農業以外の賃金収入に頼っている現状 ②砂糖を中心とするモノカルチャー経済から付加価値の高い農産物を生産するなどの多様化が図られるべきである
(3) 製造業	①外国企業への積極的な誘致 ②Swaziland Industrial Development Company (SIDC) による工業化政策の進行	①農産物加工・木材加工依存型からの脱却

### 3. 我が国との関係

我が国は1968年9月スワジランドを独立と同時に承認、71年に外交関係を樹立した(在ザンビア大使館が兼轄)。

スワジランドは我が国に実館を有しておらず、査証事務は在京英国大使館が代行している。

貿易関係は南アが通商窓口で、90年の対日輸出は果実、石綿、ソーダパルプ等 6.4百万ドル。日本からの輸入は自動車、スライドファスナー等 7.5百万ドルであった。



### Ⅲ. 援助実績と動向

#### 1. 援助の概況

1990年度はD A C諸国の援助が国際機関の援助を上回り、支出純額で36.1百万ドルを供与している。主要援助国は米国、イタリア、旧西ドイツである。また、日本は支出純額で0.1百万ドルの二国間援助を行っている（8位）。国際機関の援助の支出純額は19百万ドルで、主要援助機関は欧州開発基金（E D F）である。

図-3 援助形態別ODA推移

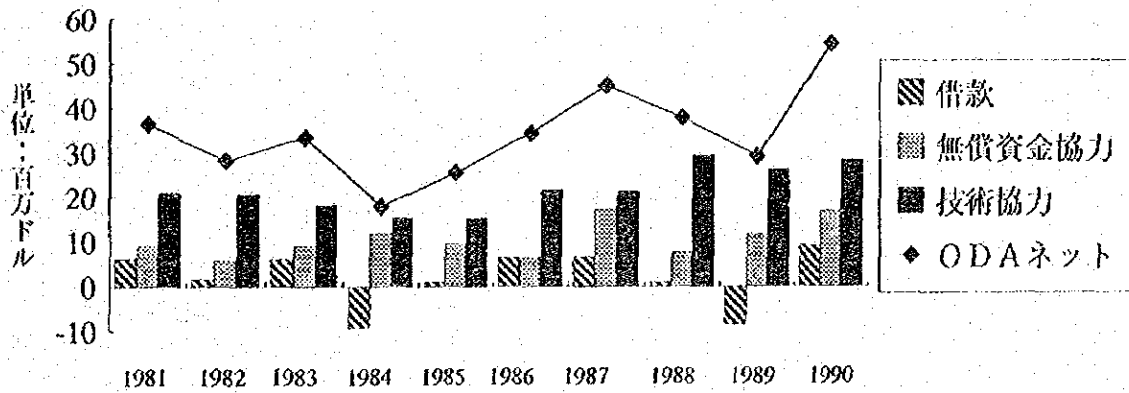


図-4 援助主体別ODA推移

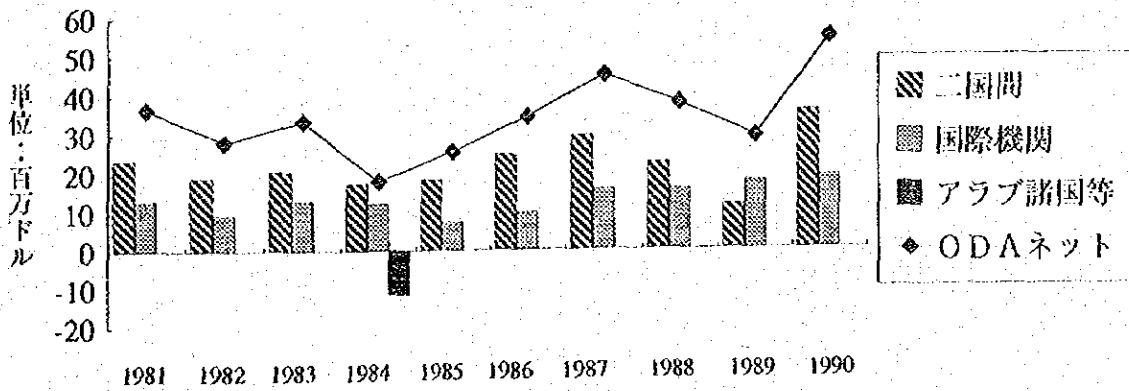


図-3, 4 出所 Geographical Distribution of Financial Flows to Developing Countries 1983-1992 OECD

## 2. 主要援助国及び国際機関の援助実績と動向

### (1) 二国間援助

#### 7) 旧西ドイツ

旧西ドイツは、1989年2月にマンジーニに工業地帯を整備するため、2,200万ラント(89年1月に24,038R = 1ドル)を融資する協定に調印した。旧西ドイツは融資の他に協力員も派遣し、外国企業を誘致している。

### (2) 国際機関等の援助

#### 7) 欧州共同体 (EC)

ECの支出純額は、1986年・約240万ドル、87年・約400万ドル、88年・500万ドル、89年・90年、800万ドルと増加の一途をたどっている。

具体的な援助例としては、ヨーロッパ投資銀行(BEI)の工場などに対する融資が挙げられ、同行は、87年にスワジランド工業開発会社(SIDC)設立に、300万ecus(ヨーロッパ通貨単位、88年に1.12812ecus = 1ドル)、88年7月に、マンジーニ近くにある製糸工場の拡大計画に300万ecusを融資している。さらに同行は89年8月に再びスワジランド工業開発会社に、屠殺場改築に200万ecus(89年7月に1ecus = 1.07031ドル)、工業企業に貸す6,000㎡の工業建物の建設に100万ecusを融資した。

#### 4) 国連・FAO世界食糧計画(WFP)

WFPの支出純額は、1986年・0.8百万ドル、87年・3.8百万ドル、88年・2.4百万ドル、89年・3.4百万ドル、90年・3.6百万ドルであった。

#### 9) 国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)

UNHCRの活動は主にモザンビークからの難民に対して行われたものである。

図-5 スワジランドへのODA

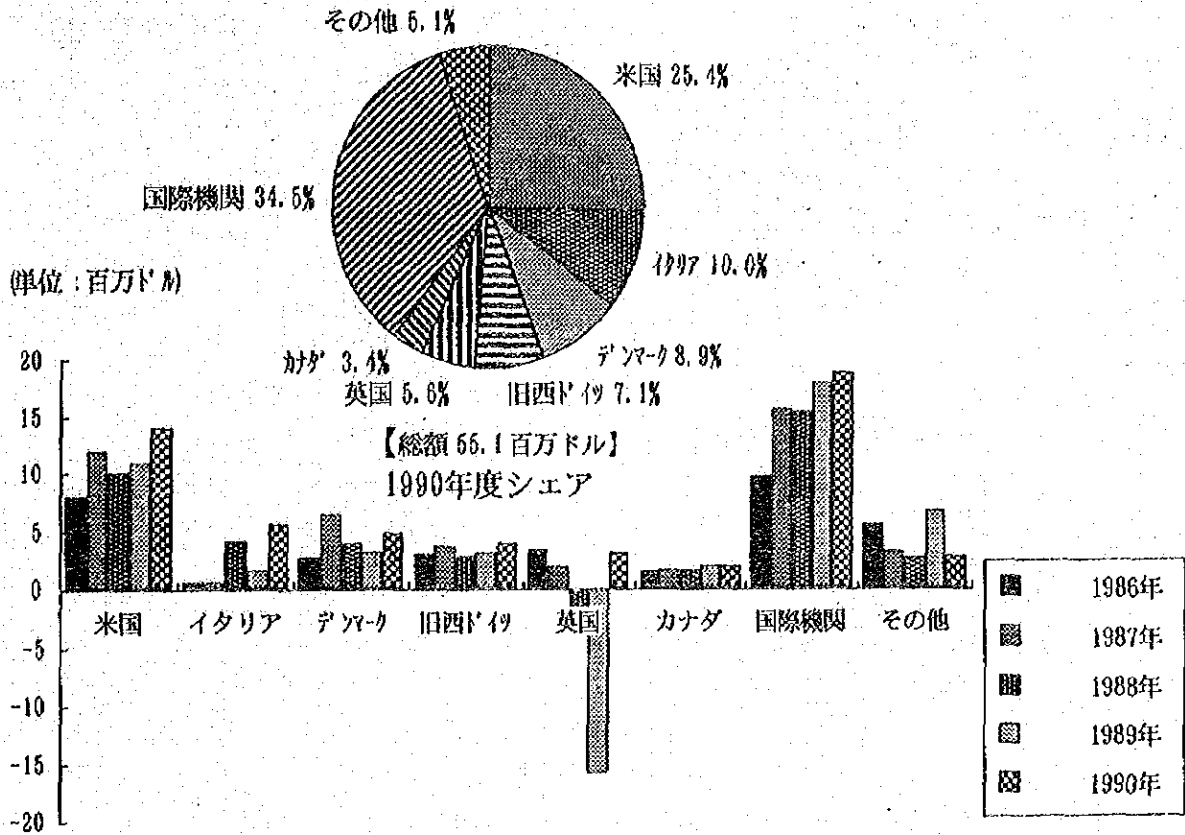


図-6 スワジランドへの技術協力

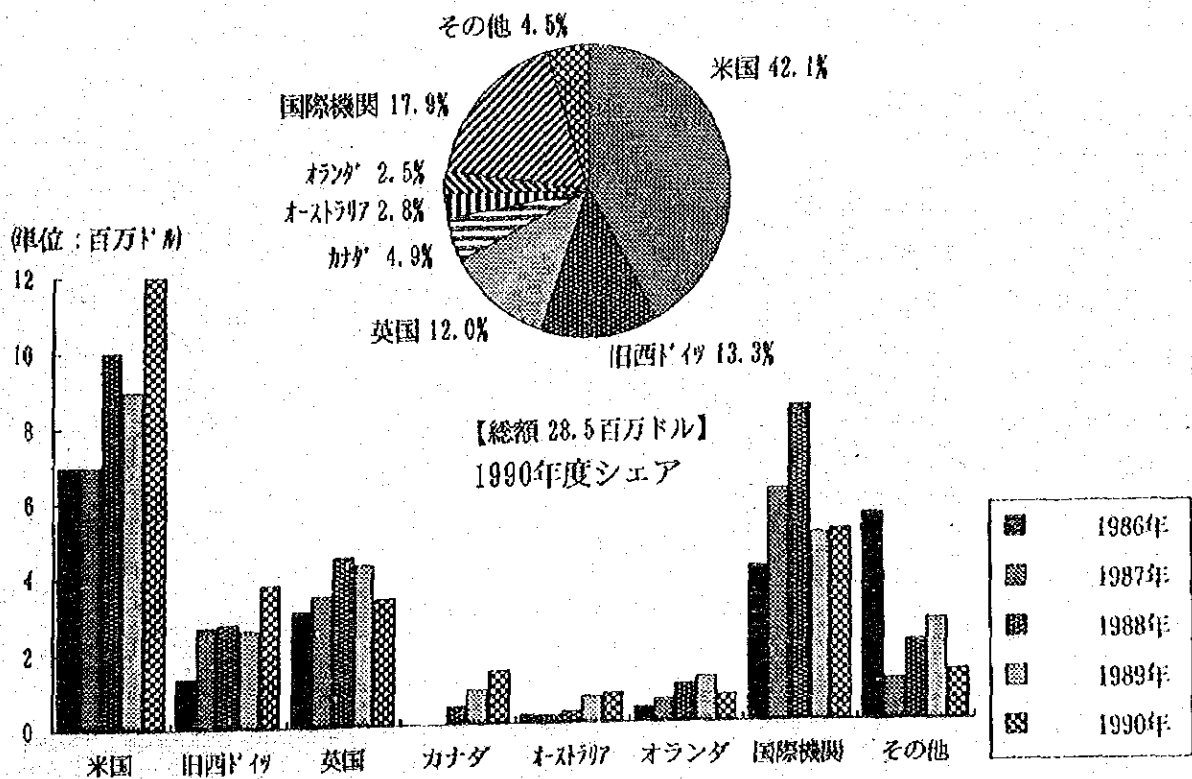


図-7 スワジランドへの無償資金協力

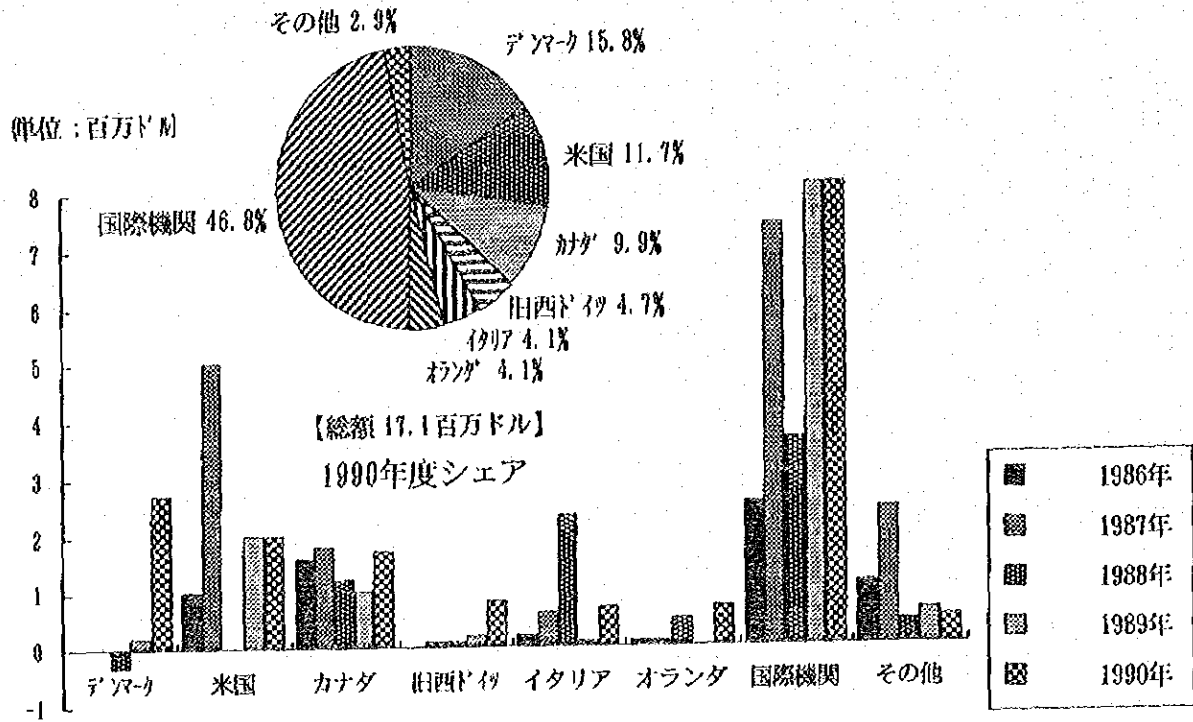


図-8 スワジランドへの借款

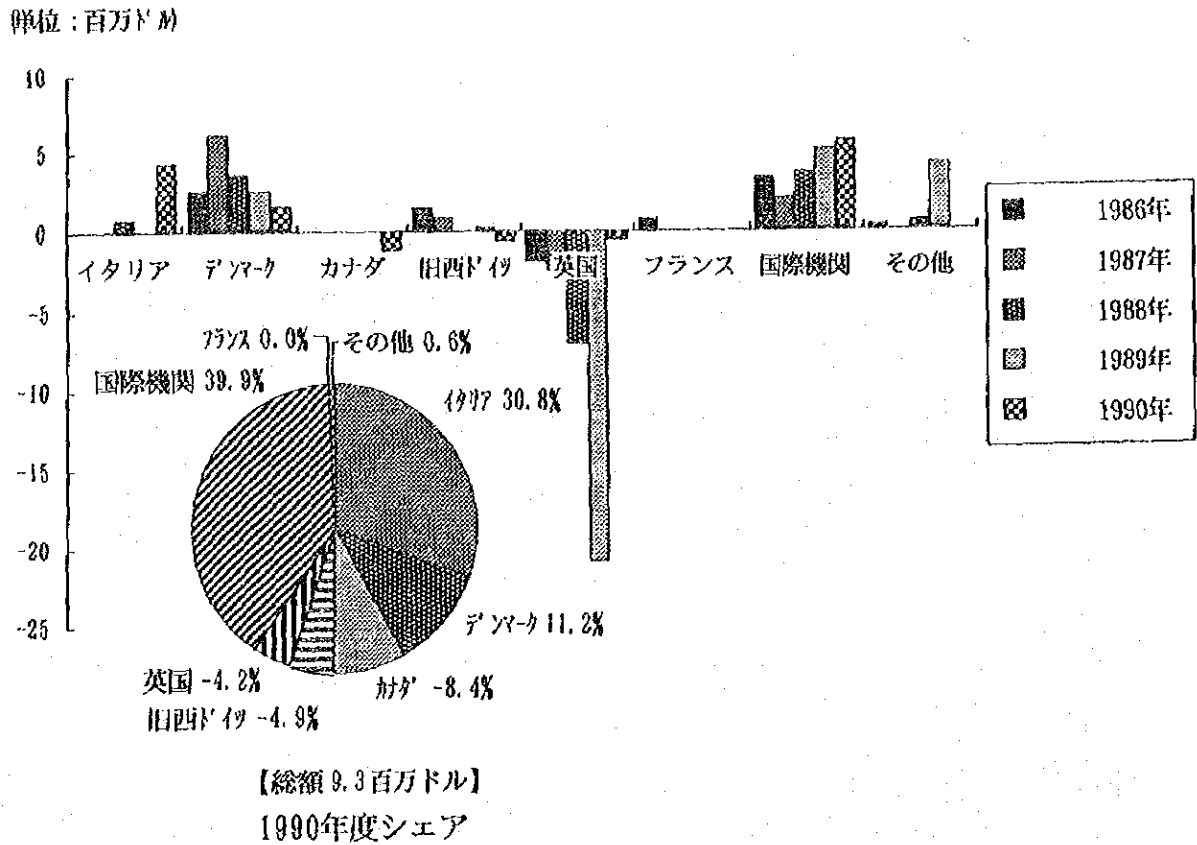


図-7, 8 出所 Geographical Distribution of Financial Flows to Developing Countries 1988-1992 OECD

### 3. 我が国の援助実績と動向

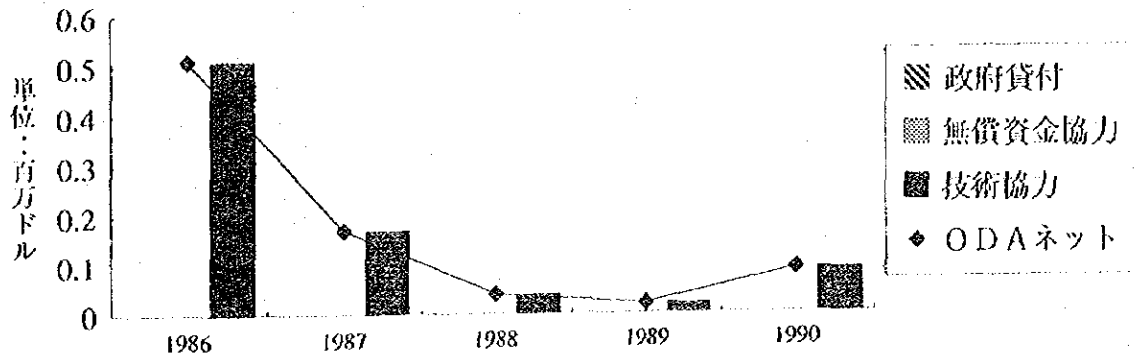
#### (1) ODA 総論

我が国はスワジランドの一人当たりGNPが比較的高い水準にあることから研修員受入などによる技術協力を中心に援助を実施している。また、1989年度及び90年度には食糧増産援助を、92年度にはプロジェクト確認調査を実施した。

#### (2) 技術協力

我が国の対スワジランド援助は技術協力が中心である。支出純額で見ると、1985年は0.75百万ドルであったが、87年には0.17百万ドル、88年には0.04百万ドル、89年には0.02百万ドルと年々贈与額は減少していたが、90年には0.1百万ドルになった。

図-9 我が国の対スワジランドODA実績



出所 『我が国の政府開発援助』 1990 国際協力推進協会

7) 研修員受入

研修員受入については、公共・公益の分野を中心に、1990年度までの累積で37人の受け入れが行われた。

4) 専門家派遣

専門家派遣については、1990年度までの累積で18人が派遣された。

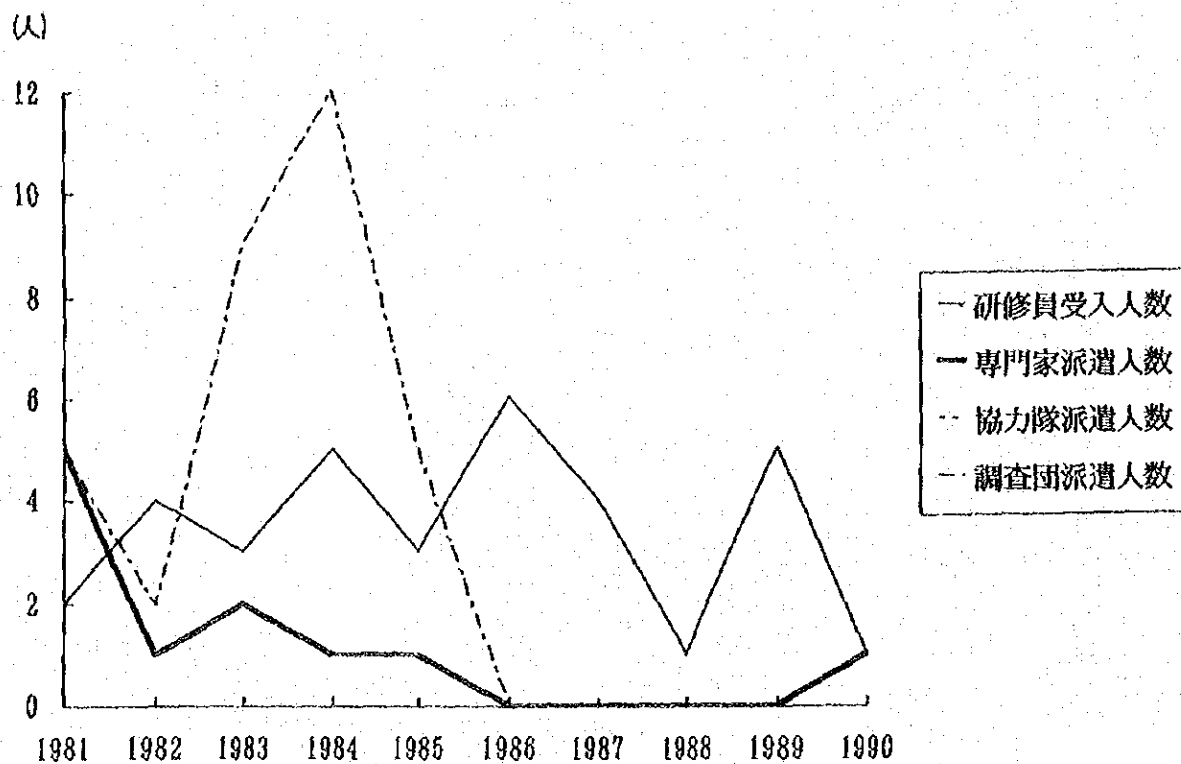
7) 青年海外協力隊

青年海外協力隊派遣については、1990年度まで行われていない。

1) 開発調査

開発調査については、1954～90年までの終了案件は「新国際空港建設計画」「ルブク石炭開発計画」「石炭開発計画」の3件である。

図-10 過去10年間の年度別受入及び派遣人数



出所 『国際協力事業団事業実績表』 1991 国際協力事業団

図-11 分野別の研修員受入累積実績  
(スワジランド)

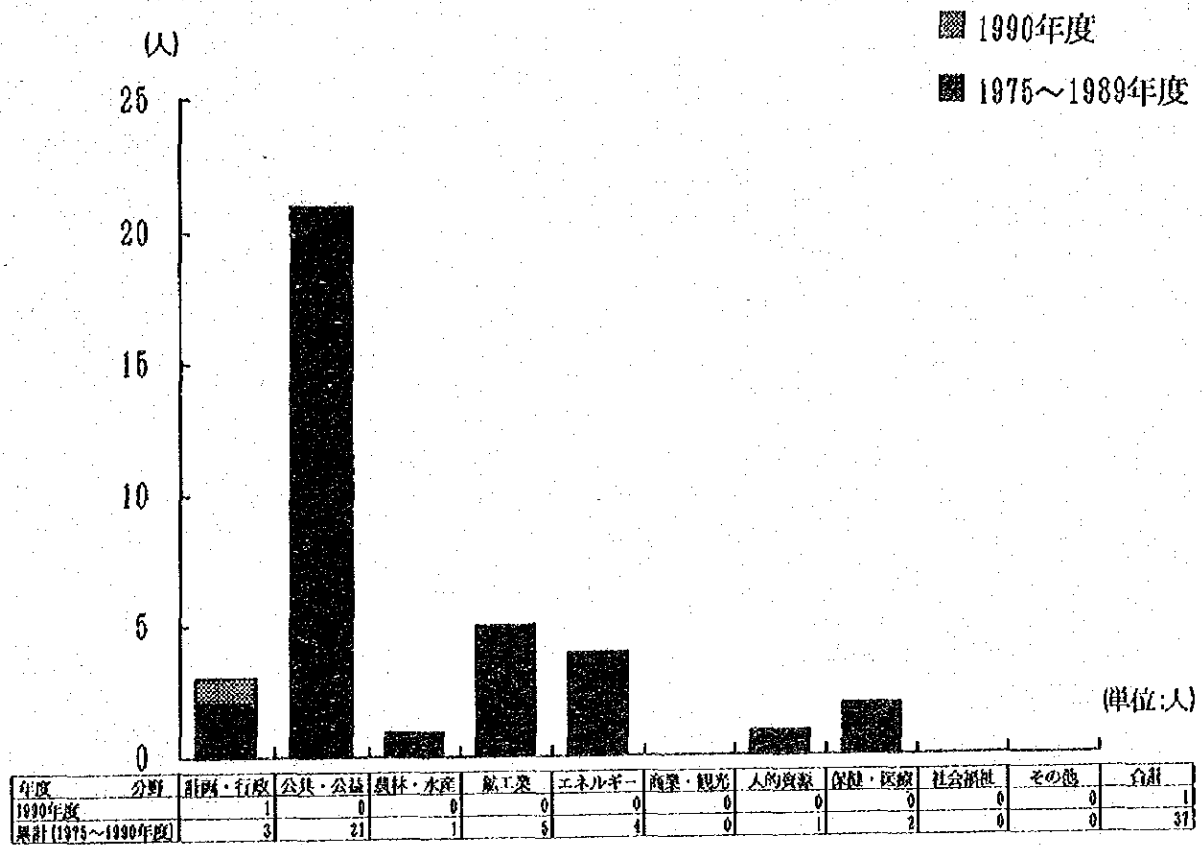


図-12 分野別の専門家派遣累積実績  
(スワジランド)

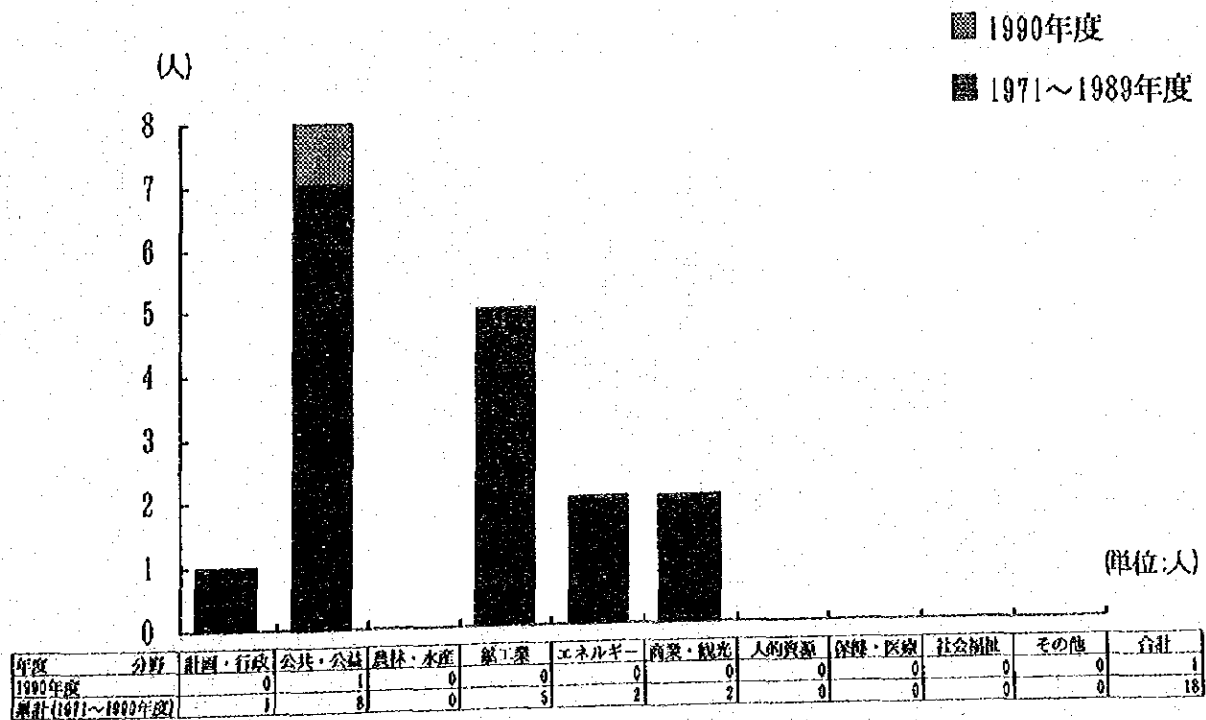


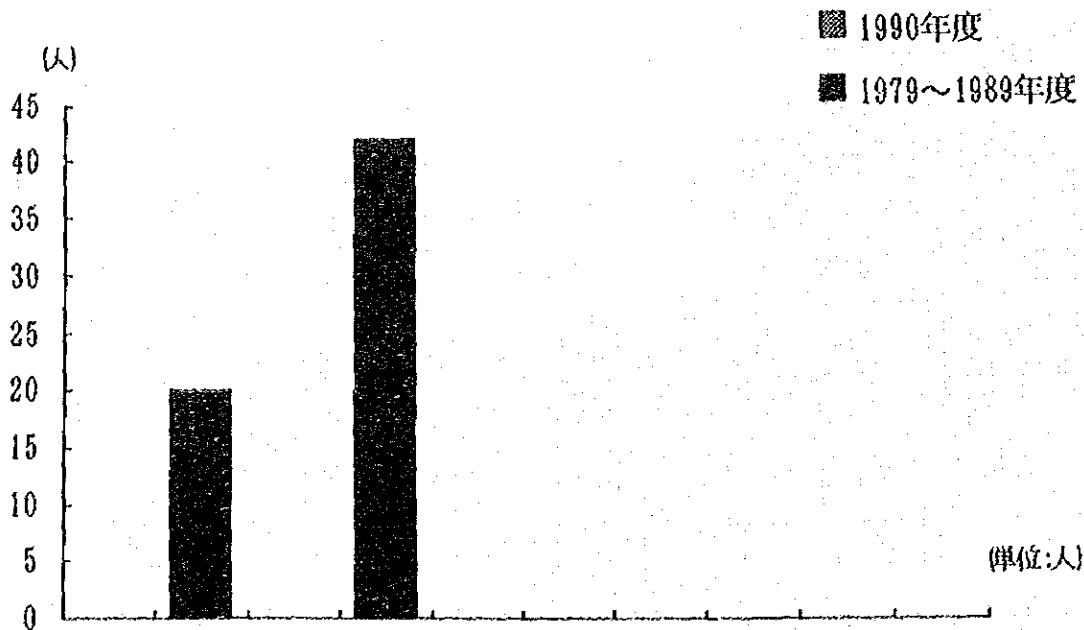
図-13 分野別の協力隊派遣累積実績  
(スワジランド)

1990年度まで派遣実績無し

(単位:人)

年度	分野	計画・行政	公共・公益	農林・水産	鉱工業	エネルギー	商業・観光	人的資源	保健・医療	社会福祉	その他	合計
1990年度		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
累計(～1990年度)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

図-14 分野別の調査団派遣累積実績  
(スワジランド)



(単位:人)

年度	分野	計画・行政	公共・公益	農林・水産	鉱工業	エネルギー	商業・観光	人的資源	保健・医療	社会福祉	その他	合計
1990年度		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
累計(1979～1990年度)		0	20	0	42	0	0	0	0	0	0	62



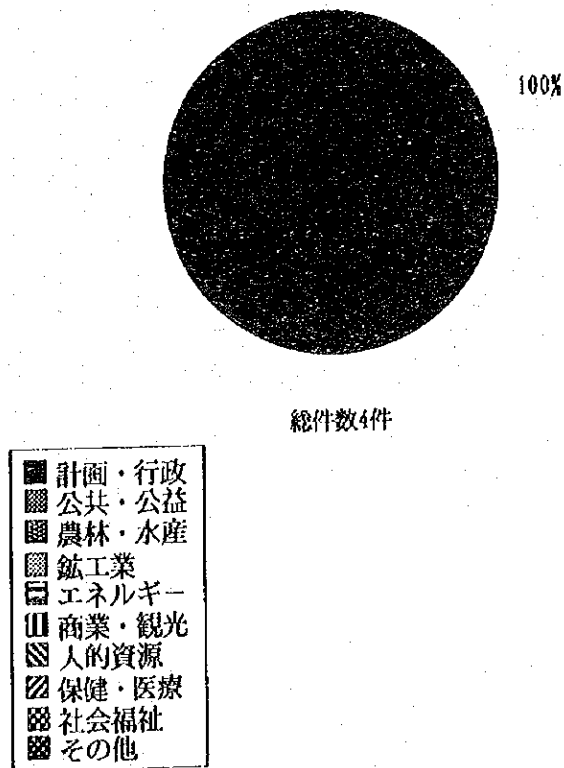
(3) 無償資金協力

無償資金協力については、食糧増産援助、災害緊急援助が中心であり、1990年度までの累計で、4件の協力が行われた。

(4) 円借款

円借款については、スワジランドに対して1990年度まで供与されていない。

図-15 分野別の無償資金協力累積実績  
(スワジランド)



出所 『国際協力事業団事業実績表』 1991 国際協力事業団

# 4. ファクトシート

## (1) 技術協力実績

スワジランド王国 に対する国際協力事業団事業

累計実績 (1954年度～1990年度)		1991年度 実績	
技術協力経費	1,346 百万円		百万円
援助効果促進費	プロジェクト確認調査 プロジェクト形成調査 企画調査員 在外専門調査員	件 件 名 名	件 件 名 名
開発調査	1954年度開始～1990年度までの終了案件 1974年度開始～1990年度までの終了案件 1. 新国際空港建設計画 2. ルブク石炭開発計画(案) 3. 石炭開発計画(案)	3 件 3 件 (79年度～79年度) (83年度～85年度) (80年度～82年度)	(うち終了) 件 件
無償資金協力調査	1974年度開始～1990年度までの終了案件	0 件	件
プロジェクト方式技術協力	1954年度開始～1990年度までの終了案件 1974年度開始～1990年度までの終了案件	0 件 0 件	(うち終了) 件 件
個別専門家派遣	1.8 名 経済インフラ [ 鉱工業 44 % エネルギー 28 % 商業・観光 11 % ]		1 名 0 名 0 名 0 名 (長期) (短期) (長期) (短期)
ミニプロ 研究協力	1977年度開始～1990年度までの終了案件	件	件 件

スワジランド三國 に対する国際協力事業団事業

(1) 技術協力実績

累計実績 (1954年度～1990年度)		1991年度 実績	
件	百万円	件	百万円
単独機材供与			
医療特別機材供与			
研修員受入	一般	37名	57%
	青年招へい	0名	14%
	国際機関	3名	11%
第三国研修	1977年度開始～1990年度までの終了案件	継続 新規	件 件
	青年海外協力隊	名	名 名 名
移住事業			
奨学金給付	件	件	百万円
緊急援助	1985年度～1990年度実績	件	件

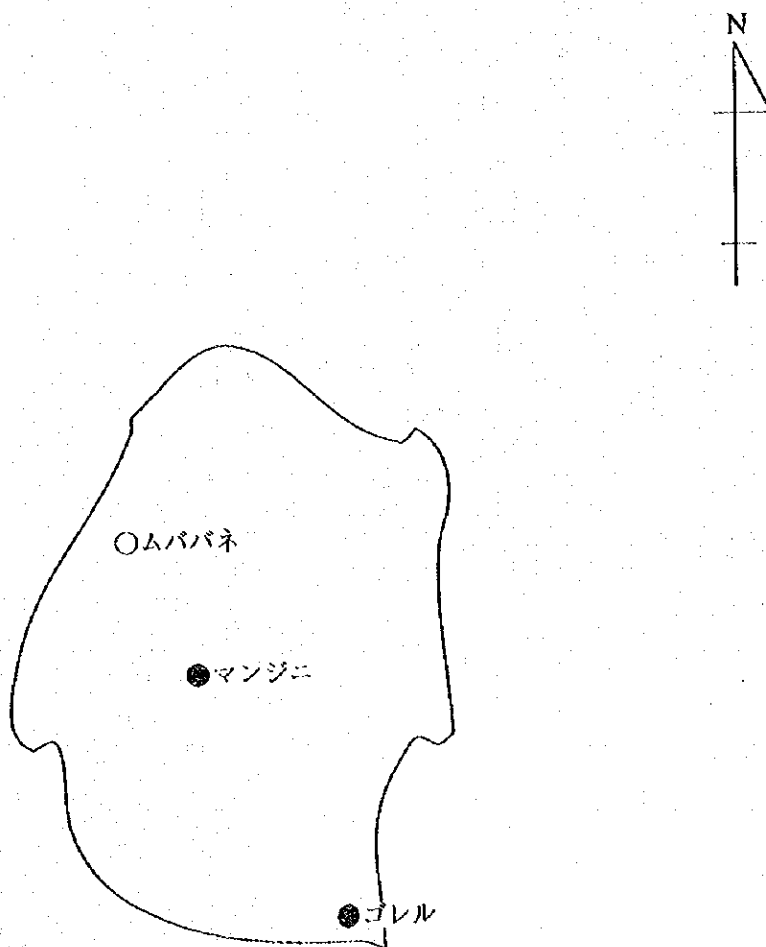
(2) 資金協力実績

スワジランド王国 に対する資金協力実績

	無償資金協力		有償資金協力	
	主 要 案 件 名	金額 (億円)	主 要 案 件 名	金額 (億円)
～1985年度累計	2 件	2.16	0 件	
1986年度	0 件 1. 2. 3. 4. 5.	( ) ( ) ( ) ( ) ( )	0 件 1. 2. 3. 4. 5.	( ) ( ) ( ) ( ) ( )
1987年度	0 件 1. 2. 3. 4. 5.	( ) ( ) ( ) ( ) ( )	0 件 1. 2. 3. 4. 5.	( ) ( ) ( ) ( ) ( )
1988年度	0 件 1. 2. 3. 4. 5.	( ) ( ) ( ) ( ) ( )	0 件 1. 2. 3. 4. 5.	( ) ( ) ( ) ( ) ( )
1989年度	1 件 食糧増産援助 1. 2. 3. 4. 5.	( 1.50 ) ( 1.50 ) ( ) ( ) ( )	0 件 1. 2. 3. 4. 5.	( ) ( ) ( ) ( ) ( )
1990年度	1 件 食糧増産援助 1. 2. 3. 4. 5.	( 1.50 ) ( 1.50 ) ( ) ( ) ( )	0 件 1. 2. 3. 4. 5.	( ) ( ) ( ) ( ) ( )

## IV. プロジェクト配置図

### 1. プロジェクト方式技術協力 [1974～1991年度]

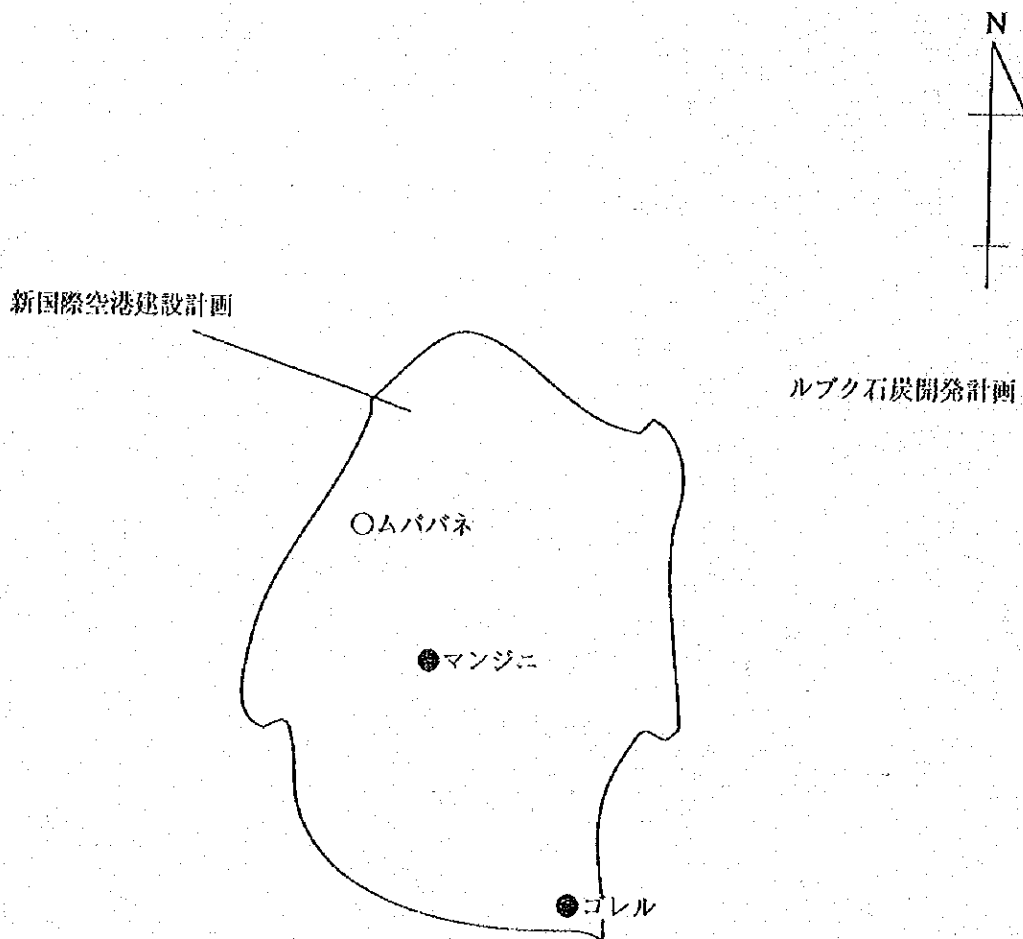


案件：無

注) ・記載の案件名はファクトシートによる  
・◎印は、平成4年4月20日  
現在実施中の案件を示す

## 2. 開発調査

[1974～1991年度]

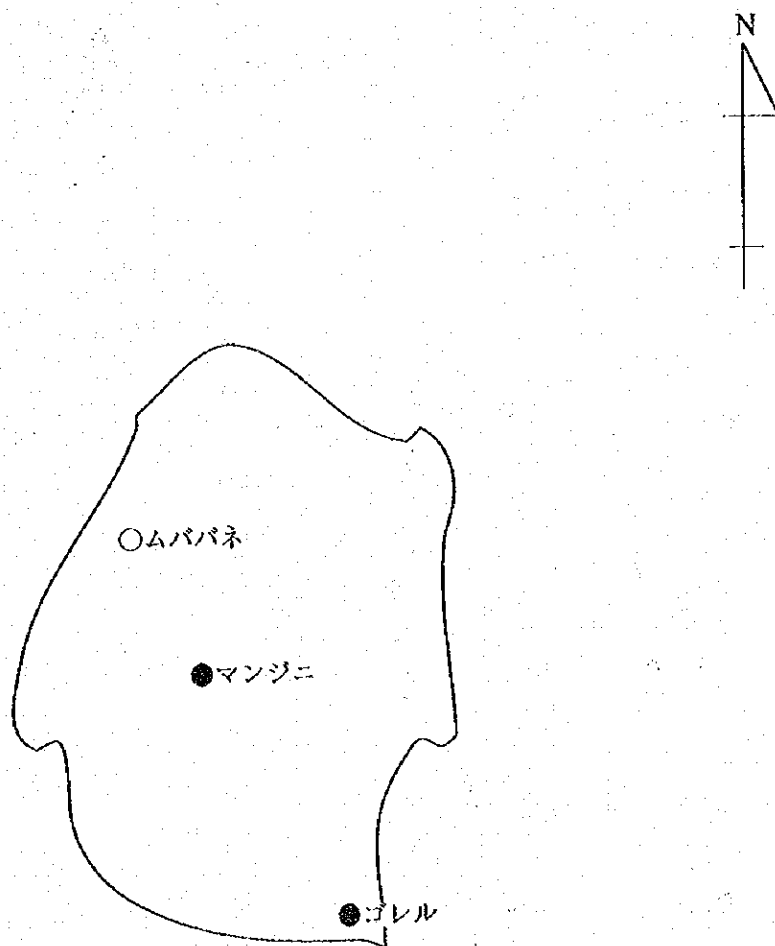


<広域>  
石炭開発計画

注) ・記載の案件名はファクトシートによる  
・◎印は、平成4年4月1日  
現在実施中の案件を示す

### 3. 無償資金協力

[1986～1990年度]



<広域>

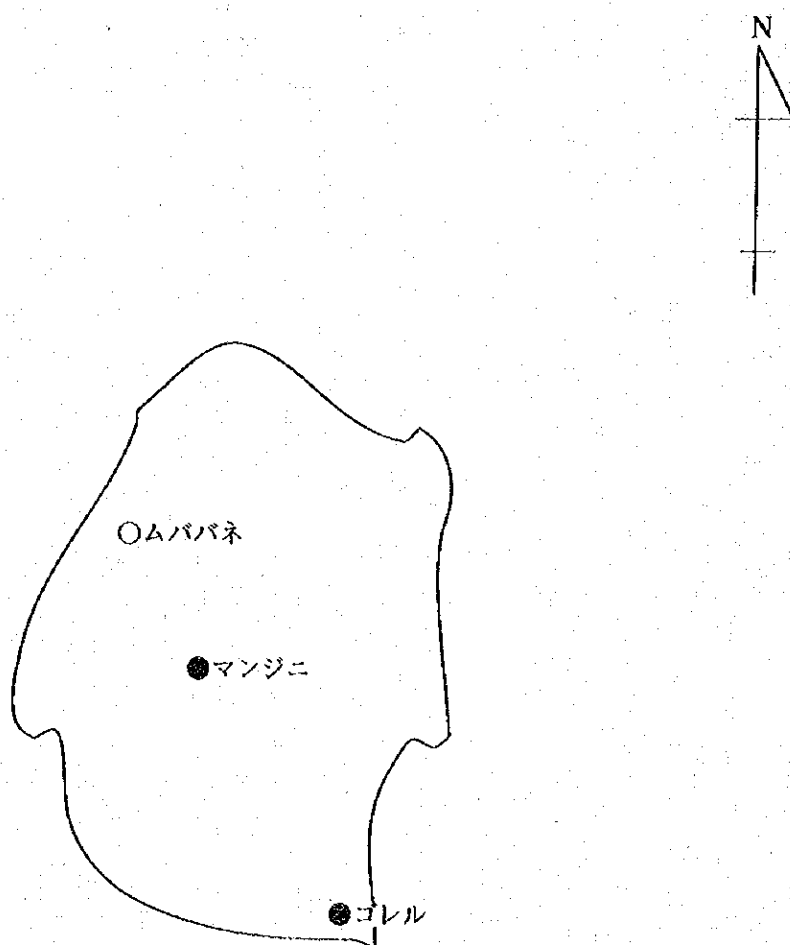
食糧増産援助(1989)

食糧増産援助(1990)

注) 記載の案件名はファクトシートによる

#### 4. 円借款

[1986～1990年度]



案件：無

注) ・記載の案件名はファクトシートによる



〈 参 考 資 料 一 覧 表 〉

No. 1

項 目	資 料 名	発 行
I. 概 況	アフリカを知る事典, 1989 朝日旅の百科: アフリカⅢ, 1982 世界の国一覧表, 1991 World Development Report, 1992 世界年鑑, 1990 世界各国要覧, 1991 アフリカ年鑑, 1989-90 Country Profile : Swaziland, 1990-91 アフリカでの暮らし: スワジランド, 1982 イミダス, 1992 東京銀行月報, 第44巻 第6号 1992 The World Bank Atlas, 1991	平凡社 朝日新聞社 世界の動き社 The World Bank 共同通信社 東京書籍 アフリカ協会 E I U 国際協力サービスセンター 集英社 東京銀行 The World Bank
II. 経済情勢及び経済・社会 開発計画 1. 経済情勢	アフリカ年鑑, 1989-90 アフリカを知る事典, 1989 世界年鑑, 1990 スワジランド王国概要, 1991 世界各国要覧, 1991 Country Profile : Swaziland, 1990-91 現代アフリカの悩み, 1986 The World Bank Atlas, 1990	アフリカ協会 平凡社 共同通信社 外務省 東京書籍 E I U 日本放送出版協会 The World Bank
	Country Profile : Swaziland, 1990-91 現代アフリカの悩み, 1986 World Development Report, 1992	E I U 日本放送出版協会 The World Bank
	スワジランド王国概要, 1991 我が国の政府開発援助, 1991	外務省 国際協力推進協会

項 目	資 料 名	発 行
III. 援助実績と動向 1. 援助の概況	我が国の政府開発援助 下巻, 1991 アフリカ年鑑, 1991	国際協力推進協会 アフリカ協会
2. 主要援助国及び国際機関の 援助実績と動向	我が国の政府開発援助 下巻, 1991 アフリカ年鑑 Geographical Distribution of Financial Flows to Developing Countries, 1992	国際協力推進協会 アフリカ協会 UNDP
3. 我が国の援助実績と動向	我が国の政府開発援助 下巻, 1991 国際協力事業団年報, 1991 国際協力事業団実績表, 1991 ファクトシート, 1992	国際協力推進協会 国際協力事業団 国際協力事業団 国際協力事業団
4. ファクトシート	実績資料全般	国際協力事業団
IV. プロジェクト配置図	ファクトシート, 1992	国際協力事業団



●スワジランド王国